



3月号
2024 No.17



中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
シアワセを
つなぐ仕事

SPECIAL REPORT

看護師一人ひとりが
輝ける未来をめざして。

看護部改革特集

CONTENTS

- 1 Cure 病気のおはなし
- 2 Care 療養支援のおはなし
- 3 地域医療を支える新しい力
- 4 地域医療の豆知識
- 5 NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

医療界全体で看護師不足が続くなか、看護部では看護師の離職を防ぐとともに、潜在看護師の皆さんにアプローチすべく、新たな教育・働き方改革を進めていこうとしています。今回の特集では、そんな看護部のチャレンジを追いました。ぜひお読みいただき、これから始まる改革に関心を持っていただきたいと思います。

SPECIAL REPORT

看護師一人ひとりが 輝ける未来をめざして。

看護部改革特集

看護師の働き方や教育改革を進め、
より質の高い看護を実践していく。

後輩たちのことを考え 副看護部長に就任。

西尾市民病院の看護部は、看護部長1名、副看護部長2名の体制。2022年、副看護部長の一人に就任したのが高須由江である。高須は新卒で同院に就職。循環器内科、外科など一般病棟をひと通り経験した後、2009年、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得。外来治療センターの看護師長として、がん化学療法を受ける患者を支えてきた。そこから突然、副看護部長へと抜擢され、最初は引き受けるべきかどうか大いに迷ったという。「今でも患者さんのそばでずっと支えたいという思いを強くもっています。ですから、現場の第一線を離れて管理職になることに抵抗感がありましたね」と振り返る。そんな高須の気持ちを動かしたのは、後輩たちの存在だった。そして現看護部長である小川の「そろそろ順番だよ。管理室で一緒に働きましょ」という言葉に後押しされた。「今まで、看護部の指導や指示を受けながら、守られた環境のなかで自由に働かせてもらった。今度は後輩たちが生き生きと楽しく働けるようにサポートする役割を自分が担当しなくてはいけないのだらうと思いました」（高須）。
こうして悩んだ末に、副看護部長に就任してから2年足らず。高須は、慣れない病棟の管理業務を一つひとつ覚えて実践するカタチで、教育委員会のリーダーにも就

CHAPTER 01

任し、いよいよ看護師教育に力を入れようと考えている。「当院では新人教育は充実していますが、中堅クラスの教育は自己申告制で研修に参加するスタイルで、なかなか学ぶ機会を得られない人もいます。この教育体制を改革し、キャリアを積むことに必要なことをしっかり学べる体制を作っていきたいですね」と意欲を燃やす。看護師の学びのポイントの一つとして、高須は「看護に対するニーズの変化」を挙げる。「昔の医療は治すことが目的でしたが、高齢患者さんが増えるにつれ、治し支える医療が重要になり、より退院後の生活を見据えた看護が問われるようになってきました。そうした看護の変化について、私も含めて学びを深め、より質の高い看護の提供に繋がっていきたく考えています」。

COLUMN

●看護師の資格を持ちながら、医療機関で働いていない（潜在看護師）は、全国で約70万人いるといわれています。西尾市民病院の看護部ではその人々に焦点をあて、働く仲間を増やしていこうとしている。

●「長く現場を離れていると、電子カルテなど最新の医療環境にも不安を感じていると思います。そういう方々には新人と一緒に、現場のことを一から学べるプログラムを用意したい」と高須。看護部の教育体制をさらに充実させていく考えだ。



看護師の働き方改革を進め、看護部を強化する。

高須が看護師教育に目を向けるのは、看護師をめぐる厳しい状況があるからだ。実はここ数年、多くの病院で新卒の看護師の離職が相次いでいる。その背景には、コロナ禍で十分な看護実習を受けられないまま入職し、現実の厳しさに心折れてしまうという事情があるという。離職するのは、新人だけでない。大きな業務負担、不規則な勤務形態、女性が働く上で直面する妊娠・出産などのライフイベントなどから、キャリアを積んだ後に辞めていく人も多い。その一方で、社会の高齢化により在宅療養する人が増えており、看護師の需要は今後さらに増加することが予測されている。

このように看護師不足が続くなかで、高須は看護部長をはじめとした管理職全員で力を合わせて、看護師の教育改革、さらに働き方改革も進め、看護師みんなが生き生きと輝ける環境づくりをめざしている。

「たとえば、いったん高度急性期病院を辞めた人に、ここならもう一度働ける（やりたい看護を諦めなくていいんだ）と思ってもらえるような看護部を作りたいと考えています。もともと当院は、個々の事情に配慮した柔軟な勤務シフトを用意するなど、働きやすさに力を入れています。その良さを活かしつつ、さらに足りないところを補強して復職に興味のある人にアプローチしたいですね」と、構想を語る。では、同院の看護のアピールポイントは何だろうか。「当院は急性期医療を提供しつつ、在宅療養までカバーしているところとされています。そのため、救命や治療を優先する高度急性期病院とは違い、より患者さん一人ひとりに寄り添う看護を実践できます。逆の言い方をすれば、患者さんとじっくり向き合ってケアしたい方にとって、非常にやりがいがあるのではないのでしょうか。そんな志を持つ仲間と一緒に、これからの看護部、そして西尾市民病院を作っていきたいと思います」。高須は力強い口調でそう締めくくった。

BACK STAGE

看護師に求められる患者を「支える」視点。

●社会の高齢化により、患者を〈治す〉医療から〈治し支える〉医療への転換が進められている。それに伴い、看護師にも患者の生活を支える役割が要求されるようになってきた。

●その転換は、看護師一人ひとりに看護の原点に立ち返る機会を与えているといえるだろう。看護の原点とはすなわち〈患者に寄り添う〉ことに他ならない。西尾市民病院の看護部もまた、その原点に立ち、看護部改革を進めようとしている。



キュア
Cure

病気の おはなし

先生、
教えて!

テーマ

骨粗しょう症

骨粗しょう症の最大リスクは骨折。
要介護・要支援に繋がる
危険性があります。



01 代謝バランスが崩れ、 骨がもろくなった状態。

骨の中では、常に古い骨が削られ（骨吸収）、代わって新しい骨がつくられており（骨形成）、新陳代謝を繰り返しています。そのバランスが崩れ、骨がもろくなった状態を骨粗しょう症といいます。

骨粗しょう症自体に痛みはなく、通常の生活に支障はありませんが、問題なのは、外部から力がかかると、簡単に骨折してしまうことです。例えば、転倒や尻もち、くしゃみや咳など、ほんのちょっとしたことでも骨折に繋がります。

発症リスクが高いのは、50歳以上の女性です。骨を守っていた女性ホルモンであるエストロゲンが、閉経後に減少するためです。

02 半年から年に1回は検査をし、 治療も継続的に受ける。

骨粗しょう症の診断では、X線を用いたDEXA法により骨密度を測定し、若年成人の平均値を基準に、70%未満なら骨粗しょう症と確定されます。

治療は、服薬や注射の薬物療法が中心になります。服薬では、骨の材料となる成分を増やす、破骨細胞の作用を抑える、女性の場合は女性ホルモン

を補充するといった薬を使用します。また、自分もしくは家族による自己注射もあります。骨を作る作用の促進、壊れることへの抑制が目的ですが、副作用の可能性を鑑み、一生で2年間と定められています。

骨粗しょう症は、半年から年に1回は骨密度の検査を受け、数値が上がっているか、現状維持を続けているかを確認し、途中で止めることなく、継続的に治療を受けることが大切です。



Message

医師からのメッセージ



整形外科
リハビリテーション科 部長
犬飼規夫

骨粗しょう症は、食事や運動による「予防」が何より大切です。

骨粗しょう症での一番のリスクは骨折です。高齢者に多い骨折には、手首部分の橈骨遠位端骨折、脊椎の圧迫骨折、そして、股関節部分の大腿骨近位部骨折の三つがありますが、なかでも大腿骨近位部骨折では、寝たきりに結びつく可能性もあります。現に、厚生労働省の国民生活基礎調査では、要介護・要支援になる人の12.5%は骨折・転倒によるもので、その多くは骨粗しょう症が原因と考えられています。

骨粗しょう症で重要なのは、予防です。カルシウムをはじめバランスの良い食事を取る。骨に重力負荷が加わるウォーキングや筋力トレーニングなど、適度な運動をすることが大切です。日々の生活のなかで少しずつ意識を高め、骨粗しょう症予防に努めてください。

療養支援 のおはなし

テーマ

骨折リエゾンチーム

病気を
治すだけじゃ
ありません。

高齢者の骨折・二次骨折を防ぎ、
活動的な生活を続けていただけるよう、
多職種連携をもとにサポート。



01 多職種が連携。高齢患者さんの骨折予防に取り組む。

当院では、骨折リエゾンチームが中心となり、骨折リエゾンサービスを提供しています。リエゾンとは、フランス語で結びつきや仲介、橋渡しといった意味です。当チームは、高齢患者さんの骨折・二次骨折を予防するために、多職種が力を合わせ連携して活動していきます。

発足の背景には、高齢者の骨折率の増大、そして、一度骨折を起こした方の二次骨折の増加があります。それに対して多職種で編成されたチームが、骨折の大きな要因である骨粗しょう症の治療開始、治療継続、転倒予防などを働きかけ、骨折・再骨折率を低下させ、患者さんの生活の質向上をめざしていきます。

02 認知機能、活動性、検査データなどをもとに、継続的に活動。

骨折・再骨折率を低下させるためには、骨折リエゾンチームによる対象患者さんの特定、二次骨折リスクの評価、投薬を含む治療の開始、フォローアップ、患者さんと医療従事者への教育と情報提供など、5つの要素が重要になります。そのため、医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、社会

福祉士、事務職など多様な専門職が、患者さんの認知機能、活動性、検査データ、服薬状況などの情報共有、評価を繰り返すとともに、ご家族とも協力しながら、リスク回避を図ります。

また、骨折・再骨折率の低下は、病院だけで実現できるものではありません。当チームは、退院後の患者さんの生活も意識し、地域の医療・介護関係者との連携にも力を入れています。



Message

私たちが支援します



二村 あゆみ
(4階西病棟 看護師長)
大場 千尋
(リハビリテーション室 理学療法士)

「骨折の連鎖」を断ち切り、日々の生活を守るために。

「骨折の連鎖」という言葉をご存知ですか？ 特に骨粗しょう症の方の場合は、全身的な骨の弱さがあり、一つの骨折が、次の骨折に繋がりがちです。それを防止し、原因となる骨粗しょう症の継続治療を進めるために、骨折リエゾンチームは誕生しました。

多職種の活動は、例えば看護師は、骨粗しょう症の情報提供、治療継続の大切さ。理学療法士は、転倒防止のための機能訓練や家屋状況・生活動線の見直し。薬剤師は、内服薬の管理方法。管理栄養士は、食事の重要性と骨粗しょう症のための食事の工夫など。患者さんにご家族に理解いただけるよう指導を続けていきます。対象患者さんには、活動的な日々を持続するためにも、チームの活動にご理解、ご協力をお願いします。

地域医療を支える

新しい力

チカラ

対談企画

初期臨床研修医 × 看護師



私たちの
仲間を
ご紹介。

めざすは、患者さんが何でも相談できるプロ!



当院で、間瀬先生は1年目、鍋田看護師は3年目。
現在の状況や心境をお話ください。

鍋田 私は消化器・形成・脳神経外科の病棟で勤務しています。外科系病棟は、患者の皆さんが、お家に帰ってこれがやりたい、だからリハビリも頑張る!と、退院を目標に頑張っているんです。看護師は、その意欲を引き出すのが役割。成果が目に見えて解るときはうれしいですね。

間瀬 私は、医学部卒業後の初期臨床研修医1年目で、各診療科をローテーションして学んでいます。それと同時に救急外来でも勤務があります。特に救急外来では、患者さんを早く、間違いなく診察して、治療に繋げなくてはと、とても緊張しますね。判断に迷っていると、上級医が的確、且つ、丁寧に方向性を助言してくださり、とても感謝しています

鍋田 先輩への感謝は私も同じです。1年目のときの先輩は、私自身が自分でしっかり考えて成長していけるように、全部ではなく、ちょっとしたヒントを与えてくださったんです。自分で考える大切さを、今になってとても強く感じています。



医師として、看護師として、
これからはどんなプロをめざしていきますか?

間瀬 私は、患者さんに好かれる医師になりたいですね。診察の際、距離感があると患者さんも言いたいことが言えないと思います。コミュニケーションの壁がない関係がいいですね。

鍋田 患者さんとの関わり方やコミュニケーションの難しさは、私も感じたことがありましたね。そんなとき、私は看護師ですから、日常的なケアをしながらリラックスしてもらい、少しずつ話を引き出す努力をしてました。

間瀬 リラックスした状態なら、話も自然に生まれますね。

鍋田 患者さんには、少しでも不安な思いや疑問があったら、何でも話してもらいたいんです。医師や看護師同士で相談して、少しでも良い方向に向かうよう工夫していきますから。そのためにも、専門知識の深い看護師になりたいです。

間瀬 小さなこと、些細なことでも、実は病気や病状に深く関係することがあります。患者さんから遠慮することなく、何でも相談してもらえるプロ! これが理想ですね。



専門領域として、美容的な意味も含めた皮膚科に、今は興味を持っています。



スーパ認定士の資格を取り、知識や技術の専門性を高めていきたいですね。

初期臨床研修医(1年目)

間瀬友香子(ませ ゆかこ)

愛知県半田市出身。中学生の頃、お世話になった医師に憧れ、この道に入りました。

看護師(3年目)

鍋田百花(なべた ももか)

愛知県西尾市出身。母が入院したとき、看護という仕事の素晴らしさを知りました。

こんな言葉知っていますか？

地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ

新人教育(看護師)

今回は
〈新人教育(看護師)〉に
ついて学びましょう



質の高い医療サービス提供者として、
多様な能力が求められる看護師には、
医療機関での教育が鍵となります。

看護師は、患者さんを支え、医師と患者さんの間に立ち、互いの立場を理解・尊重し調整を図るという役割を担っています。

そのため看護師には、専門職としての能力とともに、コミュニケーション能力、判断力、洞察力など、多様な能力が求められます。そうした能力を育むのが、新人教育です。ある程度の規模の病院では、看護部が教育システムを構築し、新人看護師に対して、座学での研修、現場での研修など、手厚い指導・教育を段階的に実施しています。また、配属後も、先輩看護師が新人看護師一人ひとりに対し、仕事や生活の両面に亘り、良き相談相手として指導を重ねていきます。

超高齢化の進展、医療技術の進歩、医療計画の改編などにより、看護師の役割は今後さらに大きく広がっていきます。病院では、新人教育に続き、本人のキャリアアップをも見つけた継続的な教育を行い、質の高い医療サービスの提供者としての看護師育成に全力を注いでいます。



西尾市民病院では

一緒に働く仲間という立場を尊重し、新人一人ひとりに伴走する新人教育。

当院看護部の新人教育は、4月・5月には集合研修とローテーション研修を行い、社会人としての基礎、基礎看護技術を学びます。6月になると、毎月1回集合研修が行われ、チューター(指導者)や認定看護師、多職種からの研修を受けます。

こうした新人のための研修では、各部署の中堅が実地指導者となり、マンツーマンで新人看護師を指導。また、研修のカリキュラムの作成・実施は、看護部副主任会が担っています。副主任会では、実地指導者の意見を聞いたり、指導に関する相談事を受けつけるなど、チューターとして機能しています。

新人研修で留意しているのは、新人たちが一人前の看護師として成長できるようにすることはもちろん、受け

入れる病棟の成長、つまりは看護部全体の成長にも繋がるよう働きかけることです。そのためには、一緒に働く仲間という立場を互いが尊重し、上から下への押しつけではなく、言葉を大切に伝え、新人一人ひとりに伴走する思いで教育を行っています。

今後は、今まで以上に、看護師の活躍する場、守備範囲が広がっていきます。市民のための病院である当院の看護部として、新人もベテランも一緒になり、その可能性をさらに広げていきたいと思えます。

6階東病棟 師長
角尾真弓(看護師)



能登半島地震の被災地にDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました

令和6年能登半島地震の被害を受けた石川県に、西尾市民病院DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました。DMATは専門的な訓練を受けた医師・看護師・業務調整員からなる即応力と機動性を備えた医療チーム。被災地からの派遣要請を受けて行われたものです。被災地では、高齢者施設から石川県外へのヘリ搬送、高齢者施設や診療所のスクリーニング及び珠州市役所での診療を行うほか、珠州市保健医療福祉調整本部での本部業務など、医療支援活動に従事しました。

派遣期間	令和6年 1月7日～14日	令和6年 2月15日～20日
派遣職員数	医師1名、看護師2名、 業務調整員2名	看護師1名、 業務調整員1名
派遣場所 活動内容	石川県珠州市 珠州市健康増進センター、 美笑苑(高齢者施設)、 珠州市役所 ほか	石川県珠州市 珠州市健康増進センター、 美笑苑(高齢者施設)



地域医療デジタル掲示板 広告募集

企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

西尾市民病院、市役所設置の
大型モニターで市民の皆さんに
情報をお届けできます。

※掲載事項および内容には、審査がございます。



お問い合わせ・
お申し込みは
こちらから



合同会社プロジェクトリンク事務局
info@project-linked.com

看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先 西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報WEBマガジン



こちらから



西尾市民病院からの最新TOPICS
や検査・治療・ケアに関する情報などをお届けし
ます。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウント
を開設しました。QRコードから「友だち追加」を
お願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171(代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



3月号 No.17
2024

発行責任者/院長 棚田 政隆

発行/西尾市民病院

記事提供/中日新聞広告局

編集協力/プロジェクトリンク事務局

発行日/2024年3月21日